

なぎさ

室見川と飯盛山



あなたと輪を広げたい

参画で気づこう 活かそう 男女の視点を

(平成30・31年度 西区男女共同参画をすすめる会 年間テーマ)

編集 西区男女共同参画をすすめる会
発行 福岡市西区地域活動推進会

(〒819-8501 福岡市西区内浜1丁目4-1)

第3回 西区自治協議会会長会と 西区男女共同参画をすすめる会の意見交換会

日時 1月21日(月)13:30～15:30

会場 西区役所 AB会議室

今回の意見交換会のテーマは避難所運営です。

昨年7月の豪雨災害を受け、西陵校区で初めて避難所を開設した時の戸惑いから、各校区で備えについて話すべきでは、と強く感じ、今回のテーマにと申し出、実施に至りました。

被災時にお世話になりました、災害支援団体代表江崎太郎さんを講師に迎え、①避難所のあらましと課題 ②防災を考える上で大切なことについてお話いただきました。熊本地震、九州北部豪雨災害、西日本豪雨災害などでの生々しい実態や、緊迫した現地での支援活動の様子に、参加者はまるで我が事のように引き込まれていました。避難所の居住空間は一人当たり最低3.5㎡、トイレは男性20人に対して1つとしたら、女性の場合は20人に対して3つ必要等と定めた『スフィア基準』があることも知りました。熊本地震での被災者は避難所へ避難した人がピーク時約19万人に対し車中泊の避難者は推定50～55万人と言われ、在宅被災者も大勢いたと考えられます。わが校区を考えてみたときに、指定されている避難所に、校区民全員どころか、ほんの一部しか収容できないことに愕然と致します。災害の種類によっては、一部避難か全員避難かの違いはありますが、今後地域での防災を考えるとき、避難所収容の優先順位、指定避難所の支援基地化(支援物資等を多くの被災者に支援できるような

拠点とする)など、現実に使える仕組みを考えるべきだと思い知らされました。自治会の防災計画の中で、男女共が大切にしている「生活者としての意見」も、取り入れていただきたいと願っています。また男女共の視点、それぞれの校区に合ったやり方を、私たちも今一度考え、校区内で声を出し参画に努めましょう。

西区男女共同参画をすすめる会 会長 井 規子



日本女性会議in金沢に参加して

大会は金沢市無形文化財の金沢素囃子(すばやし)で和楽器と長唄の素晴らしい演奏で始まりました。

基調報告や各分科会では、男女の賃金格差、女性の活躍推進に何が必要か、女性の役員が増えるという事の意味、経営者の立場からの視点、これからの子ども一人ひとりが自由に未来を選び、参加できる社会を作っていく等、様々な立場からのお話を聞くことが出来ました。

中には介護など、私生活での従来の社会通念的な役割は、女性が担うものだという無意識の偏見もまだまだ現存しています。私はこの大会を通じ、性の違いを問わず、意識の変化が見られる未来を信じ、活動を続けていきます。

愛宕浜校区 長濱 真美



言いたか放題

A: あのださ～、なかなか男女共の活動に興味持ってもらえんちゃんね～。でも、よーっと考えたら、もし逆の立場で、興味持つやろうかと思ったら微妙。どげんPRしたらいいとかいな。

B: その前に、だいたい男女共同参画って聞いたら、ウーマンリブって思っとなしゃーもん。男性的とか女性的とか言ったらいかんちゃる？

C: 確かに何をもちて男性的とか女性的って判断するかやけど、能力差、性差はあるっちゃけんさ。性的役割分担が、変って言いよっちゃない？

A: 個性を尊重するって考えたら、男女に限らず全員に当てはまるっちゃない？

B: ほんなら、わざわざ男女共同参画やなくて人尊協で、よかろうもん。

C: そうなんやけど、長い歴史の中から、「男は○○、女は△△」の意識は根深いと思うよ。

D: 効率性を考えたら、月経やら妊娠、出産やらある女性は、男性社会から見たら、めんどくさいっちゃん？でもさ、そういう意味では、そもそも世の中めんどくさいものやん？効率性ならAIやロボットでよくなるわけやけん。病気を抱えている人や、体が不自由な人やも含めて社会なんやから、みんなに優しい社会やないといかんっちゃなかるうか？そういう意味で、男女共同参画社会の実現というのは、基本的な考えだと思うよ。



……と様々な声が出ています。

皆さんは、何を言いたか放題したいですか？

著者：(M)



編集後記

男女共同参画推進会に関わって思うことは、どうやって地域の方々にこの活動を知っていただければいいか、男女共同参画の視点をいかに取り入れていくかということです。微力ながらも根気強く活動していきたいと思えます。 愛宕校区 占部 加都子

西区男女共同参画フェスティバル 2018

日時 12月1日(土) 13:30 ~ 15:30
会場 福岡市立西市民センター ホール

西区男女共同参画推進奨励賞表彰式

地域で男女共同参画を実践・推進し、地域の男女共同参画社会の形成に貢献している個人や団体に対し、毎年西区が表彰を行っています。

今年は2人の方が受賞されましたので紹介します。(敬称略)



かじやま のぶこ
梶山 宜子 (愛宕浜校区)



どうぞの まり
道園 真理 (吉岐東校区)

朗読劇 備えあれば憂いは...?

舞台は西風校区の自治協議会定例会です。各種団体や町内会長が集まって校区の避難訓練の見直しや災害に向けた心構えを話し合っています。災害時の情報伝達や避難誘導、食料や生活用品の備蓄は自治体や自治協議会の義務だと言いつつ役員に対し、誰かに何かしてもらおうという受け身のままでいけないという議論が沸き起こります。また、避難所生活を安心して過ごすため、運営に男女はもちろんのこと、障がい者や高齢者、外国人や妊婦さんなど多様な人々に入ってもらうことが大切との意見も出ます。



災害時だけでなく、常日頃から誰もが気兼ねなく声を上げやすい地域づくり、住民同士の顔の見える横のつながりをつくるのが大切だ、という登場人物の言葉が胸に残りました。 金武校区 上戸 小百合



講演会 大災害が起きたとき、本当に命と健康を守れますか？ ～高齢者・障がい者・子ども・女性などの視点から～

講師 減災と男女共同参画研修推進センター 共同代表
早稲田大学 地域社会と危機管理研究所 招聘研究員 浅野 幸子 さん

昨今の地震や豪雨などの大災害の多発をみると、いつどこで起きるかわからない身近なものとして、防災・災害支援の問題に取り組む必要があると思います。この度は浅野幸子さんを講師にお招きし、災害が発生したときに命と健康を守るための地域活動について、男女共同参画の視点で話していただきました。



- ① 被災時、一人ひとり直面する問題は違い、性別や立場など、地域に暮らす多様な人々の「違い」に配慮した体制・支援を行うことが、防災力を高め、命と健康を守ることに繋がっていくこと。
- ② 子どもや女性などからも広く意見を聞き、男女両方のリーダーが、一緒に避難先で運営に携わることが重要であること。
- ③ ①②を可能にするためには、日頃から女性も男性とともに地域の責任を担い、多様な視点を取り入れて活動していく必要がある。

とのことでした。

今後の地域活動において意識して取り組まなければならないことを「防災・災害支援」という喫緊の課題とともに印象深くお聞きできた講演となりました。 金武校区 井上 嘉代

うちの校区こんなことやってみました!

「各校区委員(会員)に関するアンケート」結果発表 周船寺校区 中嶋 康子

各校区の男女共同参画推進団体(以下、「推進団体」という)では、委員(会員)はどのように集められ役員を選出しているのかを実態調査しました。

推進団体が男女共同参画の周知や実現に熱意を持った人材で運営されるのは好ましい事です。しかし、「同じ人が何年も役員をしている」「新しい人材が確保できない」など、多くの校区で人材に関する問題を抱えているようです。他校区の実態を知ることによって解決への糸口になるのではないかと、そのような目的で今回のアンケートを実施しました。

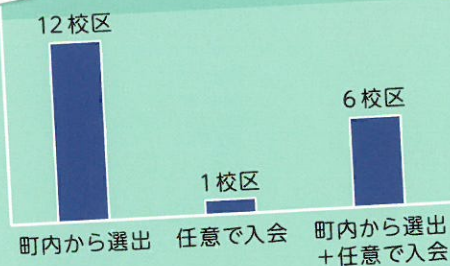
「西区男女共同参画をすすめる会」に委員を選出している21校区にアンケートを依頼し19校区から回答をいただきました。【回答率90%】

会の構成 男女比(全校区平均)

役員・委員の男女比は校区によってバラつきがありますが、西区全体ではこのような比率になりました。女性が多いのは予想どおりでしたが、男性役員・委員がゼロの校区は5校区あり、女性の会の延長のような位置づけの校区もありました。もっと男性の参加を増やしたいという意見が目立ちました。



委員の集め方



委員の集め方は、①町内から選出 ②任意で入会 ③町内から選出+任意で入会の3通りでした。任意で入会した委員で活動しているのは周船寺校区のみで、あとは毎年(または2年ごと)町内から選出される1~4名の委員で活動しています。町内からの選出の場合、町内会長が兼任している校区もありました。

しかし、それぞれに問題点があるようです。①の場合、町内ごとに選出方法が異なり現実には選出されず不在になったり、選出されても活動に全く参加しない委員も少なくありません。②の場合、任意で入会した委員の高齢化により活動せず在籍しているだけだったり、新規の委員がここ数年皆無という状況です。

役員決め方と問題点

町内から委員を選出している校区は、ほとんど委員の話し合いで決めているようです。現役員内で話し合い、適任と思う人に声掛けをしている校区もありました。副会長は自治協から決まっていたり、会長だけは任意で決めるなど役職によっても決め方は異なるようです。「役職が変わっただけで、ずっと同じメンバーで活動している」「辞めたいけど後任が見つからない」「スポ振(体育部会)などから見ると軽んじられている」といった意見もあり、どの校区も共通して役員選出にかなり苦戦しています。

選出される委員自体が同じ顔ぶれだったり、他の役職と重複していると委員の中からだけで選出するのに限界があります。

これからの課題

問題解決に向けて、様々な意見=右イラスト参照=が出されました。活動を見直し、誰もが参加しやすい会になるように試行錯誤する校区もあります。役員選出に問題点が絞られがちですが、あらゆる角度から対策していくことも大事です。

「できる事をできる人がする」をモットーにしている。他校区に比べると活動が活発ではないが、自分達のできる範囲で活動している。

自治協に人材を探してもらう必要があるのでは?

規約で他団体との交流があるため、いろいろな活動に参加し、橋渡しや潤滑油の役目を担っている。

負担が大きく同じ人が役をやる結果になっているので、誰でも出来るように活動の全てを記録に残すようにしている。